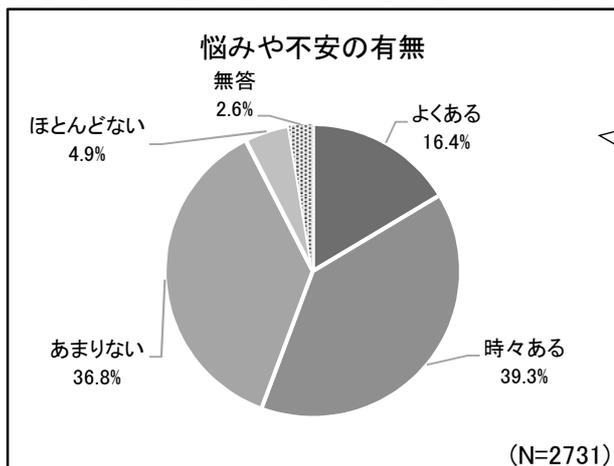
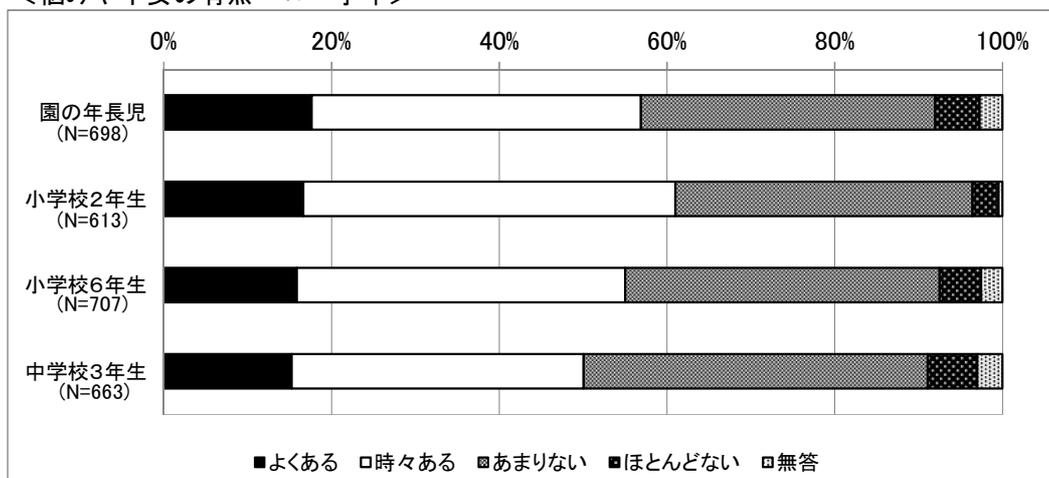


問15 あなたは、家庭教育(子育て)をする上で、悩んだり、不安になったりすることはありますか。



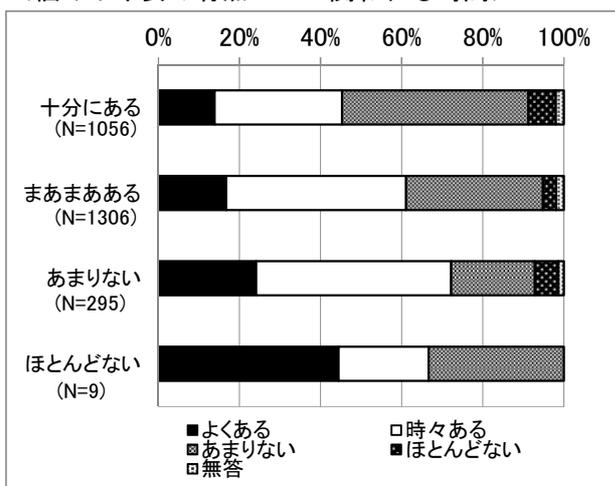
・「よくある」、「ときどきある」を含めると55.7%となり、過半数の保護者は日常的に悩んだり不安になったりすることがあると回答している。

<悩みや不安の有無 × 学年>

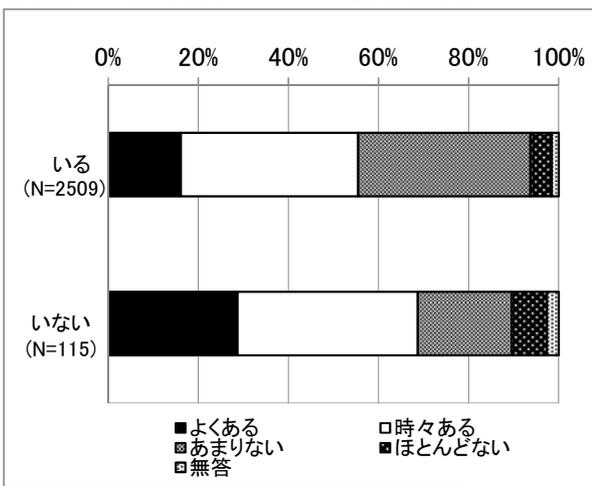


・小学2年生の保護者の約60%が悩んだり不安になったりすることがあり、小学6年生、中学3年生と、学年が上がるにつれて、その割合は低くなっている。子供が成長するにつれて、子供の自主性に任せようとする保護者が多くなっていると考えられる。

<悩みや不安の有無 × 関われる時間>

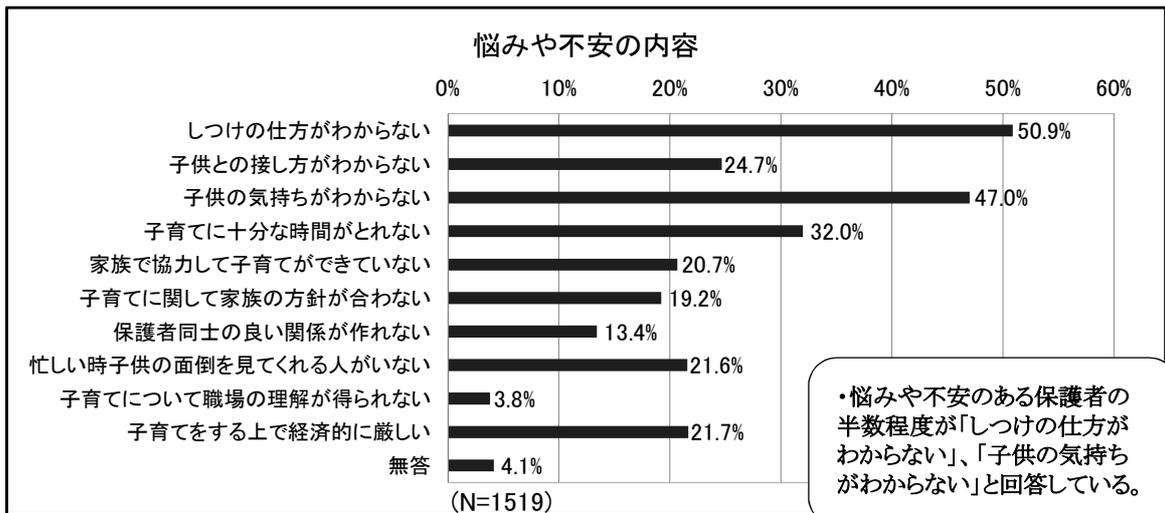


<悩みや不安の有無 × 相談者の有無>

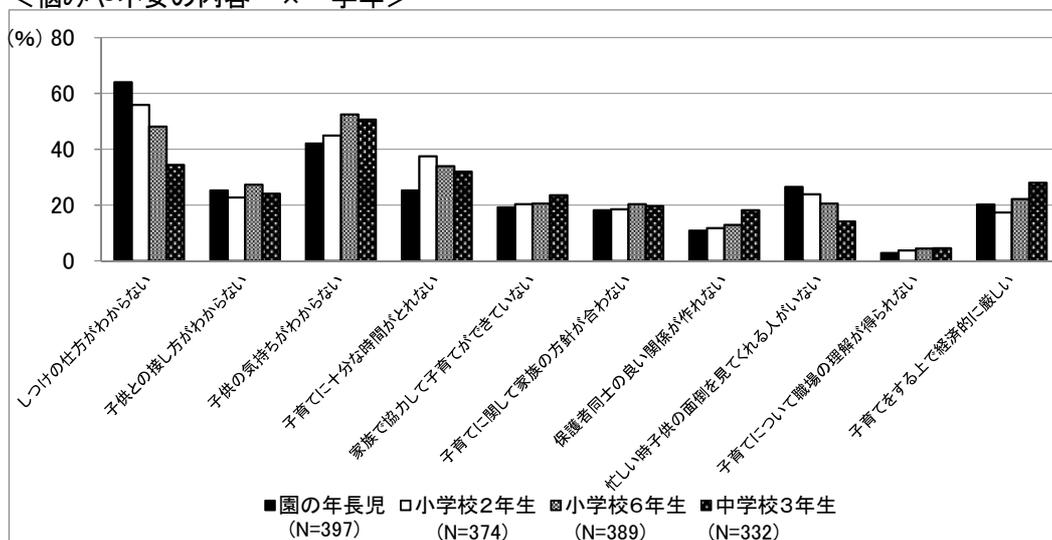


・子供と関われる時間が少ない保護者ほど、悩んだり、不安になったりする傾向がある。
 ・相談者がいない人の約70%が悩んだり、不安になったりすることがある。

問16～18 悩んだり、不安になったりすることはどんなことですか。(問15で「ある」と答えた方)



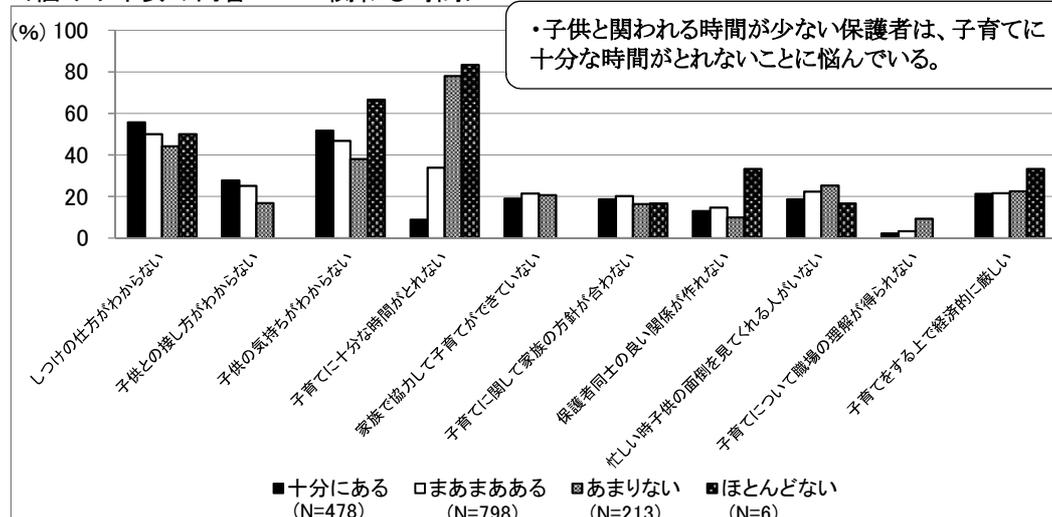
<悩みや不安の内容 × 学年>



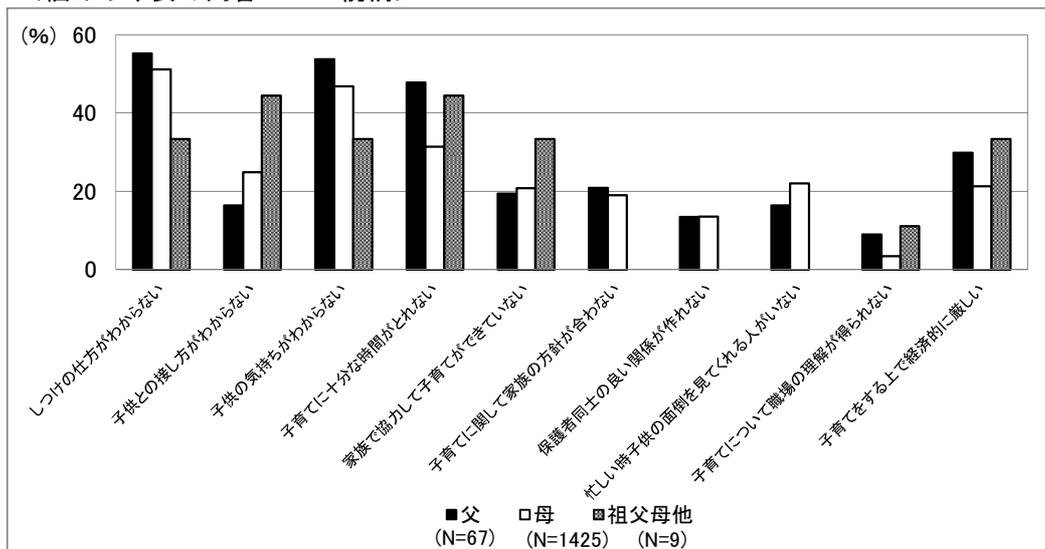
・悩みの内容の多い順は、「しつけの仕方」、「子供の気持ち」、「子供の接し方」、「子育ての時間不足」、「経済的に苦しい」、「協力して子育てできない」である。上位3事項は子供の関わり(ソフト面)に関する悩み、続く3事項は子育ての体制や条件(ハード面)に関するものである。

・中学生になると他学年に比べて「保護者同士のよい関係が作れない」とする悩みが増えている。中学生の家庭外の活動範囲の広がりに伴い、交友関係がわかりにくく、保護者関係も疎遠になりやすいと推察される。

<悩みや不安の内容 × 関わる時間>

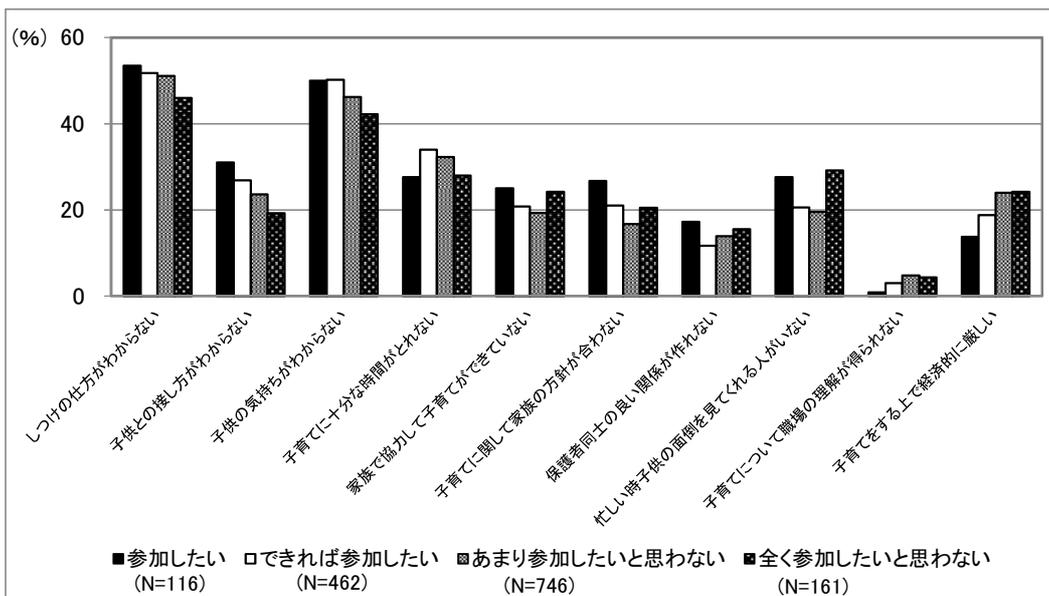


＜悩みや不安の内容 × 続柄＞



・父親、母親を比べると、父親は「子育てに十分な時間がとれない」、母親は「子供との接し方がわからない」、「忙しい時子供の面倒を見てくれる人がいない」を挙げ、割合に差がある。父親は、仕事が忙しいため子育てに十分な時間がとれず、母親の子育てに時間をかける比重が高い様子がうかがわれる。

＜悩みや不安の内容 × 学習機会参加希望有無＞



・学習機会への参加を希望する保護者ほど、「しつけの仕方」、「子供との接し方」、「子供の気持ち」などについて悩んでいる傾向がみられる。このような内容を学習機会（講習会等）で取り上げることも必要だと考えられる。

【結果を踏まえて】

- ・悩みや不安を抱えながら子育てをしている保護者が多いことがうかがわれる。悩みや不安があるのは当然であり、保護者に対して「子育てに正解はない」というメッセージを届けると同時に、悩みや不安の内容に応じた支援をしていく必要がある。
- ・保護者に対して、直接的に子供との関わり（ソフト面）の支援をすることと併せて、間接的に企業や社会全体に対して、子育て環境を充実させるための理解をさらに高めるよう、啓発活動を進めることが大切である。